

中小企業景気動向調査

〔2010年1～3月期の景況/4～6月期の見通し〕

結果概要

1～3月期の景況

- ・ 3期連続で景況感改善、自動車部品製造業が寄与。水準は依然として低い。
- ・ 売上と収益の減少傾向は続いている。
- ・ 残業時間は自動車部品製造業を除き減少傾向が収まっていない。
- ・ 人手には過剰感が残っているが、解消に向かいつつある。
- ・ 設備の過剰感が残っている。

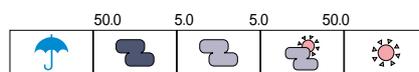
4～6月期の見通し

- ・ 先行きに対して弱気な見方が広がっている。リコールの影響や長期化するデフレを懸念。景況感は悪化する見通し。
- ・ 残業時間は減少傾向を強め、人手過剰感は増す見通し。

業種別天気図（業況判断DIによる）

業種	前期 (10～12月期)	今期 (1～3月期)	見通し (4～6月)	業種	前期 (10～12月期)	今期 (1～3月期)	見通し (4～6月)
全産業	56.3	46.6	57.9	食料品	51.7	48.4	25.8
製造業	53.2	40.9	57.1	卸売業	67.6	55.4	58.4
非製造業	59.0	51.4	58.5	小売業	61.1	51.5	58.4
自動車部品	30.6	8.9	63.4	飲食業	84.0	76.9	65.4
機械器具部	73.7	60.8	65.0	建設業	58.7	58.5	67.8
窯業・土石	45.5	57.2	52.4	不動産業	37.2	28.9	36.4
木材・木製品	35.7	53.3	50.0	運輸業	62.8	30.5	77.8
繊維製品	51.7	46.4	40.7	サービス業	48.7	48.8	45.4
印刷	50.0	25.0	58.4				

数値は業況判断DI



業況判断

【全産業】

- 1～3月期の企業の景況感を表す**業況判断DI**（業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス46.6となり、前期（2009/10～12月期・マイナス56.3）に比べ9.7ポイント改善した。DIの改善は3四半期連続。

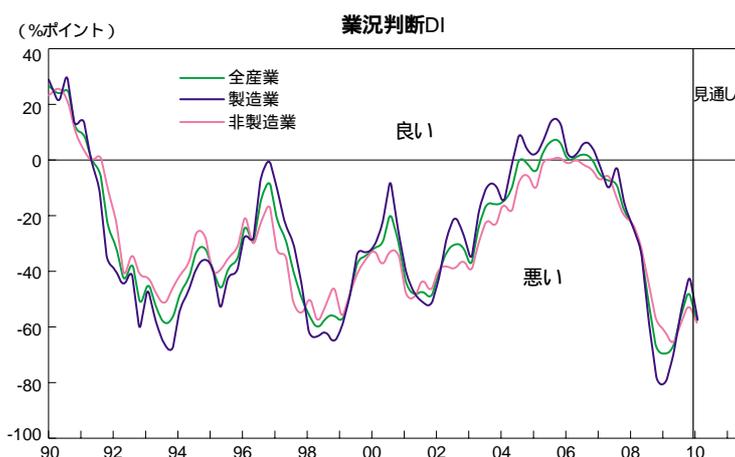
	前期	今期	見通し	変化幅			
	【10～12月期】	【1～3月期】	【4～6月期】	前期	今期	今期	見通し
全産業	56.3	46.6	57.9	9.7		-11.3	
製造業	53.2	40.9	57.1	12.3		-16.2	
非製造業	59.0	51.4	58.5	7.6		-7.1	

（単位：%ポイント　　はマイナス）

- エコカー減税や新車購入補助金などの政策効果に加え、輸出増加によって自動車部品製造業の景況が大きく改善したことが寄与。
- DIのマイナス幅は依然として大きく、リーマンショックで景気が急減速した2008年10～12月期（マイナス50.8）をやや上回る水準にとどまっている。おしなべて中小企業の景況は低調と言わざるをえない。
- 4～6月期の**業況判断見通しDI**はマイナス57.9と、再び悪化する見通しとなっている。
- トヨタ自動車のリコールの影響や長期化するデフレを懸念する声も多く、先行きに対して弱気な見方が広がっている。

【製造業】

- 業況判断DI**はマイナス40.9。前期（マイナス53.2）に比べ12.3ポイント改善した。
- 窯業・土石と木材・木製品を除くすべての製造業でDIが改善。とくに**自動車部品**と**印刷**の改善幅が大きい。
- 窯業・土石と木材・木製品のDI悪化は、住宅や工場などの建設工事の低迷で建設資材の動きが鈍かったことが響いた。
- 前期に比べてDIは改善したが、水準は依然として低いままで、業種別にみても全業種が水面下の状態にある。改善幅が大きかった**自動車部品**でさえマイナス8.9にとどまった。もっとも水準が低いのは**機械器具部品**のマイナス60.8。企業の設備投資抑制が続いていることを映している。

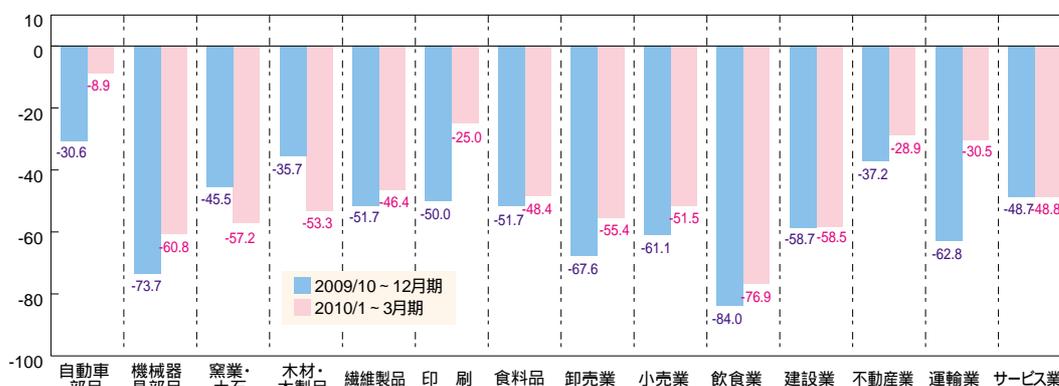


- ・ **業況判断見通しDI**はマイナス57.1。16.2ポイントの大幅な悪化が見込まれている。
- ・ とくに**自動車部品**で景況悪化を見込む企業が多い。トヨタ自動車のリコール問題が部品業界に悪影響を及ぼすリスクやエコカー減税などの政策効果が薄れる懸念が急浮上している。
- ・ **食料品**も22.6ポイントの大幅改善を見込んでいる。

〔非製造業〕

- ・ **業況判断DI**はマイナス51.4。前期（マイナス59.0）に比べ7.6ポイント上昇し、2四半期連続の改善となった。
- ・ **建設業**と**サービス業**はほぼ横這い。このほかの業種は改善した。**運輸業**は前期に続いて32.3ポイントの大幅な改善。自動車生産の回復にともなう部品輸送などが寄与した。
- ・ **卸売業**は12.2ポイントの改善、**小売業**も9.6ポイント改善した。
- ・ **業況判断見通しDI**はマイナス58.5と、7.1ポイントの悪化が見込まれている。
- ・ **運輸業**が大幅な悪化を予想する一方、**飲食業**と**サービス業**は改善を見込んでいる。

業種別業況判断DI



売上額・収益

〔全産業〕

- ・ **前年同期比売上額DI**（売上額が前年同期と比べ「増加」したと答えた企業の割合から「減少」したと答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス23.9となった。前期（マイナス53.5）に比べ29.6ポイント上昇した。マイナスは11期連続。
- ・ **前年同期比収益DI**（収益が前年同期と比べ「増加」したと答えた企業の割合から「減少」したと答えた企業の割合を差し引いた値）は全産業でマイナス23.9。前期（マイナス48.3）に比べ、24.4ポイントの上昇した。
- ・ 概して減収減益の傾向は緩やかになっているが、その傾向は続いている。

〔製造業〕

- ・ **前年同期比売上額DI**はマイナス5.7。前期（マイナス48.4）に比べ42.7ポイントの上昇。
- ・ **自動車部品**と**繊維関連**のうち**綿スフ織物**が7四半期ぶりに増収に転じた。
〔自動車部品：マイナス11.1 45.5 綿スフ織物：マイナス37.5 12.5〕

- ・ **前年同期比収益DI**はマイナス9.8。前期（マイナス39.5）に比べ29.7ポイント上昇した。
- ・ **自動車部品と繊維関連の綿スフ織物**が増益に転じた。
〔自動車部品：マイナス6.1 38.6
綿スフ織物：マイナス25.0 12.5〕

〔非製造業〕

- ・ **前年同期比売上額DI**はマイナス38.6。前期（マイナス57.8）に比べ19.2ポイントの上昇。
- ・ **前年同期比収益DI**はマイナス35.3。前期（マイナス55.9）に比べ20.6ポイントの上昇。

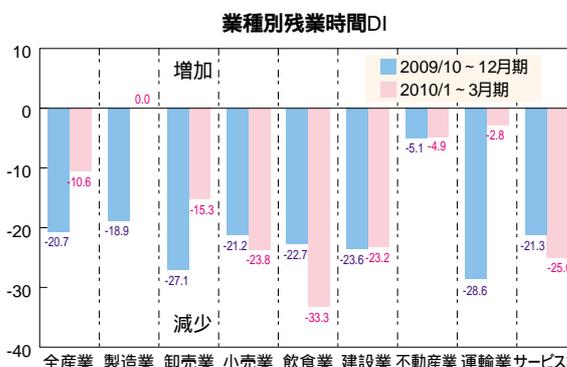
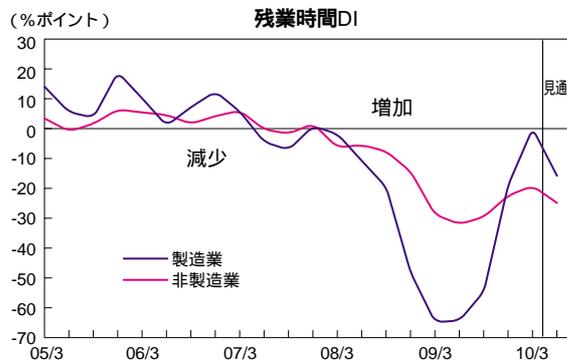
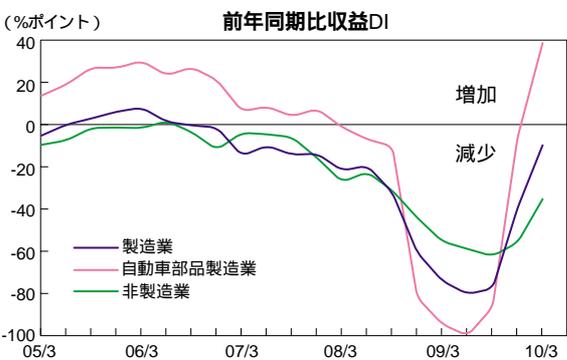
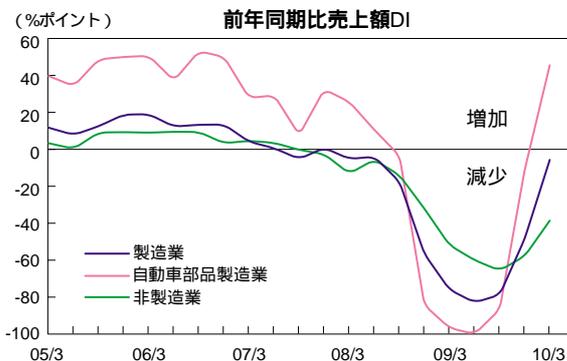
雇用

〔全産業〕

- ・ **残業時間DI**（残業時間が3カ月前と比べ「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス10.6と、前期（マイナス20.7）に比べ10.1ポイント上昇した。
- ・ 残業時間の減少傾向は変わっていないものの傾向は弱まっている。
- ・ **残業時間見通しDI**はマイナス20.7。1~3月期に比べ、残業時間は減少する見通しである。
- ・ **人手過不足DI**（人手が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）は全産業ベースで11.2となった。前期（13.6）に比べ2.4ポイント低下した。
- ・ 人手過剰感が残っているが、解消に向かいつつある。
- ・ **人手過不足見通しDI**は18.2となり、再び過剰感が増す見込みとなっている。

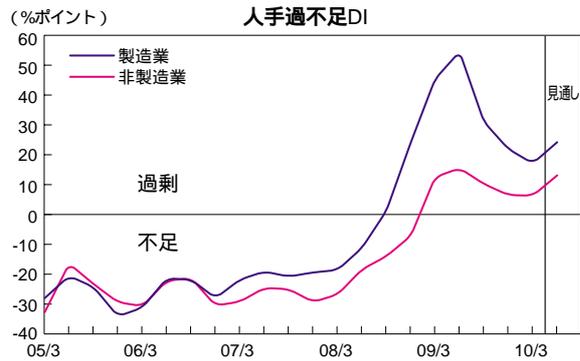
〔製造業〕

- ・ **残業時間DI**は0.0。9四半期ぶりにマイナスが解消され、製造業全体としては残業時間の減少が収まった形となったが、



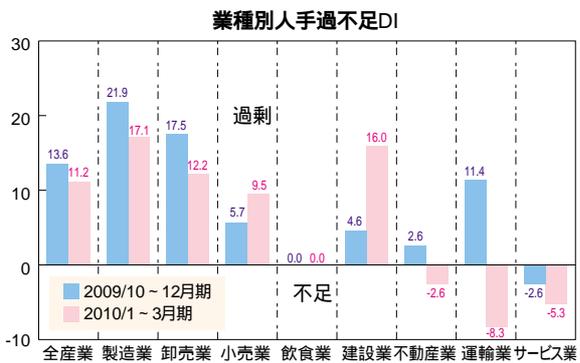
業種別にみると自動車部品以外の減少傾向は収まっていない。自動車部品は35.7。

- ・ 残業時間見通しDIはマイナス15.8。自動車部品も再び減少に転じる見通し。
- ・ 人手過不足DIは17.1。前期（21.9）に比べ4.8ポイント低下した。
- ・ 人手過不足見通しDIは24.2となっている。



〔非製造業〕

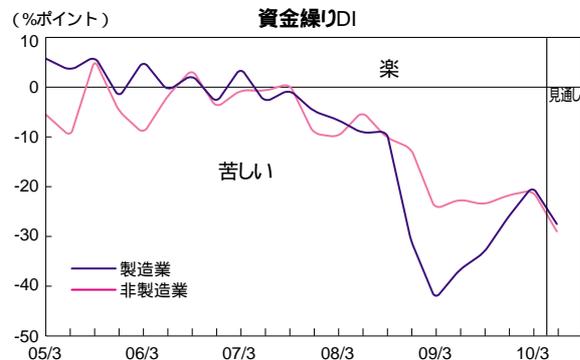
- ・ 残業時間DIはマイナス19.2と、前期（マイナス22.4）に比べ3.2ポイント上昇した。
- ・ 残業時間見通しDIはマイナス24.9となっている。
- ・ 人手過不足DIは6.3と、前期（6.5）に比べ0.2ポイント低下した。
- ・ 非製造業のうち1～3月期に人手不足に陥ったのは、不動産業、運輸業、サービス業。
- ・ 人手過不足見通しDIは13.1。業種別では飲食業が人手不足を予想している。



資金繰り

〔全産業〕

- ・ 資金繰りDI（資金繰りが3ヵ月前と比べ「楽」と答えた企業の割合から「苦しい」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス20.3となり、前期（マイナス23.8）に比べ3.5ポイント上昇した。
- ・ 資金繰り見通しDIはマイナス28.4。



〔製造業〕

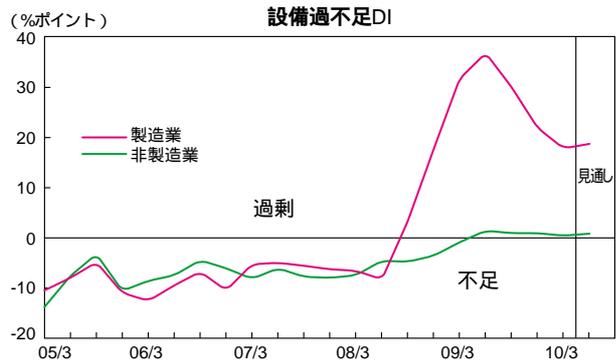
- ・ 資金繰りDIはマイナス20.0。前期のマイナス26.2に対し、6.2ポイント改善した。
- ・ 資金繰り見通しDIはマイナス27.6と、



再び悪化の見通しとなっている。

〔非製造業〕

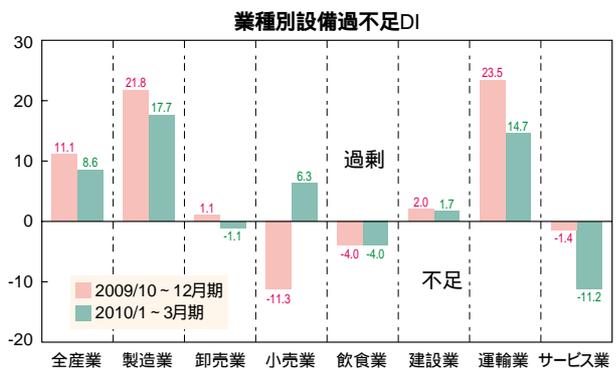
- ・ **資金繰りDI**はマイナス20.8。前期のマイナス21.8に比べ、1.0ポイント改善した。
- ・ **資金繰り見通しDI**はマイナス29.1と、8.3ポイントの悪化を見込んでいる。



設備

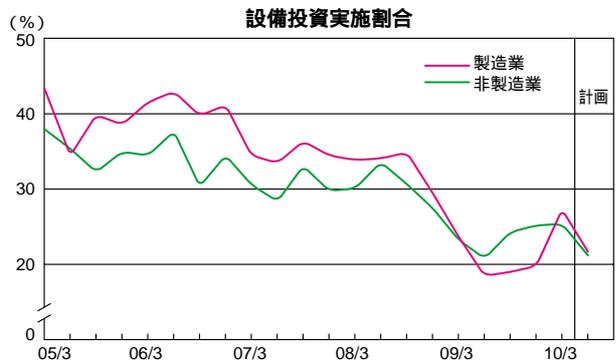
〔全産業〕

- ・ **設備過不足DI**（設備が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）は8.6となった。前期（11.1）に比べ、2.5ポイント低下した。
- ・ 設備過剰感は依然として残っている。
- ・ **設備過不足見通しDI**は9.4。
- ・ 1～3月期に**設備投資（リース・レンタルを含む）を実施**した企業は26.2%と、前期（22.4%）に比べ3.8ポイント上昇した。
- ・ 4～6月期に**設備投資の実施を計画**している企業は21.3%となっている。



〔製造業〕

- ・ **設備過不足DI**は17.7となり、前期（21.8）に比べ4.1ポイントの低下。
- ・ **設備過不足見通しDI**は18.6となっている。



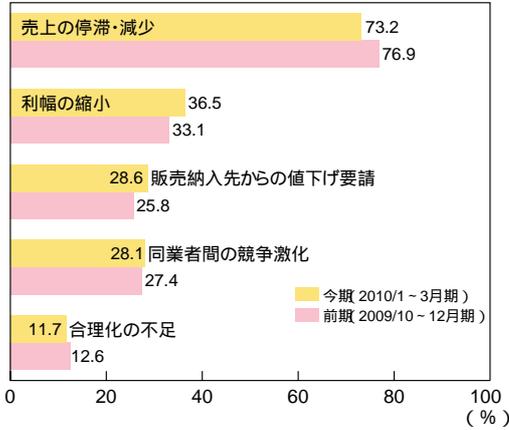
〔非製造業〕

- ・ **設備過不足DI**は0.3となり、前期（0.8）とほぼ同じ水準となっている。
- ・ **設備過不足見通しDI**は0.7となっている。

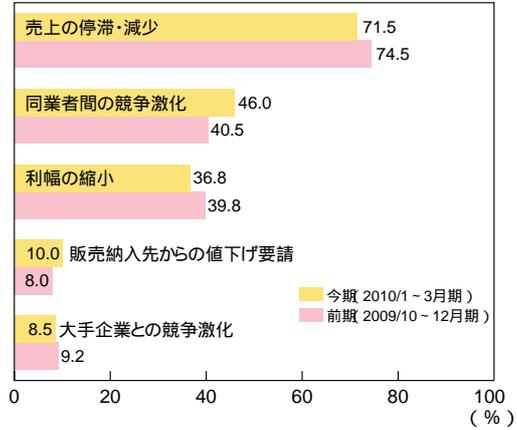


経営上の問題点

製造業

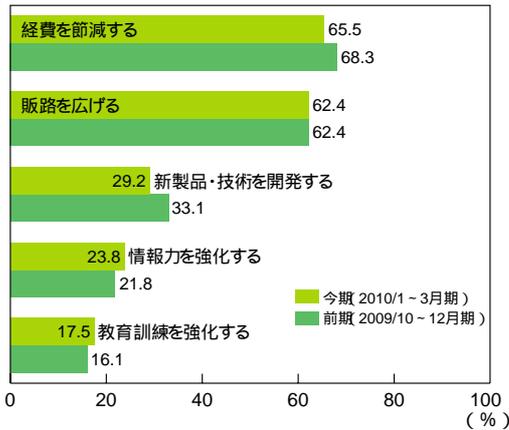


非製造業

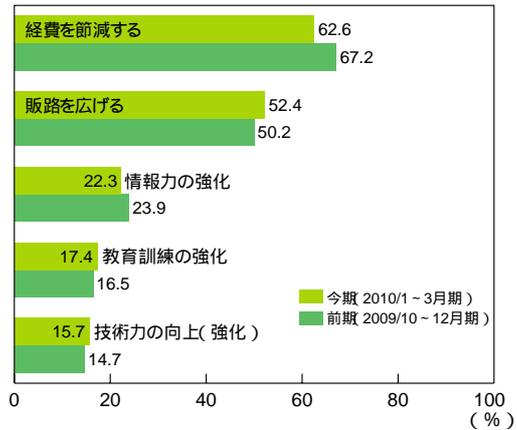


当面の経営重点施策

製造業



非製造業



【調査要項】

実施期間:2010年2月25日～3月10日

調査対象:県内の当金庫のお取引先954社(下記参照)

調査方法:郵送および面談によるアンケート調査

分析方法:業況、売上、収益、資金繰り、人手などについて、「良い」(増加など)と答えた企業割合から「悪い」(減少など)と答えた企業割合を差し引いた値(DI:Diffusion Index)を中心に分析

	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	不動産業	運輸業	サービス業	合計
対象先数	431	117	70	29	131	48	40	88	954
回答数	388	102	67	26	123	46	36	78	866
回答率(%)	90.0	87.2	95.7	89.7	93.9	95.8	90.0	88.6	90.8